

1 歩行者用デッキ整備の目的と経緯

岐阜市は、県都の玄関口であるJR岐阜駅北口及び名鉄岐阜駅周辺において、「安全な歩行空間の確保」をはじめ、「公共交通の乗り継ぎの利便性向上」、「街づくりと一体となった歩行者の回遊動線の確保」、「人が交流するたまり空間の確保」を目的として、駅周辺の交通結節機能の整備や周辺の再開発事業と合わせて段階的に歩行者用デッキを整備しております。

これまで、JR岐阜駅と周辺街区を結ぶ「杜の架け橋」や「岐阜シティ・タワー43」前の「スクエア43」など、約647mの歩行者用デッキを整備してきました。

歩行者用デッキ整備のあゆみ

平成15年度	「大岐阜ビル前デッキ」工事着手
平成17年度	「大岐阜ビル」及び「大岐阜ビル前デッキ」完成 「杜の架け橋」東側区間完成
平成19年度	「岐阜シティ・タワー43」及び「スクエア43」完成
平成20年度	「杜の架け橋」全区間完成
平成21年度	「岐阜駅北口駅前広場」完成
平成24年度	「岐阜スカイウイング37」及び「岐阜スカイウイング37前デッキ」完成

2 岐阜駅東地区の歩行者用デッキ整備について(趣旨・考え方)

岐阜駅東地区(以下、「本地区」という。)は、岐阜駅北口駅前広場の東に位置し、本市の重要な交通結節点であるJR岐阜駅、名鉄岐阜駅及び岐阜駅北口駅前広場バス乗降場に囲まれ、立地条件に大変優れた地区であります。

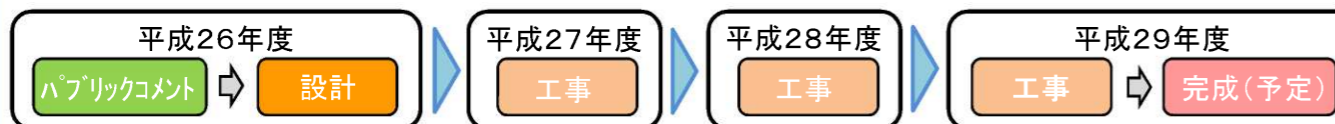
本地区を含めた一帯の区域においては、平成14年度からの岐阜駅北口土地区画整理事業により、都市計画道路などの都市基盤の強化と、土地の高度利用や都市機能の更新を目指した宅地の再配置が進められてきました。

この度、本地区においても、周辺の整備と同様に、街づくりと一体となった「安全な歩行空間の確保」、「歩行者の回遊性の向上」、「にぎわい創出」を目指して、JR岐阜駅(東自由通路2階)と岐阜駅東地区第一種市街地再開発事業で整備される再開発ビルを接続する歩行者用デッキの整備計画(案)を策定しました。併せて、この再開発ビルの2階では、歩行者用デッキと一体となって街区を往来することができる自由通路が整備されます。

3 整備概要

- 整備延長：約120m (JR岐阜駅東自由通路⇄再開発ビル)
- 有効幅員：4m (通路部)
- 付属施設：エレベータ(2基)、階段(1箇所)
- 整備費：約8億円(概算)

4 スケジュール



5 計画平面図・現況写真・完成イメージ図

